

SEINAN CHANTEURS



2000



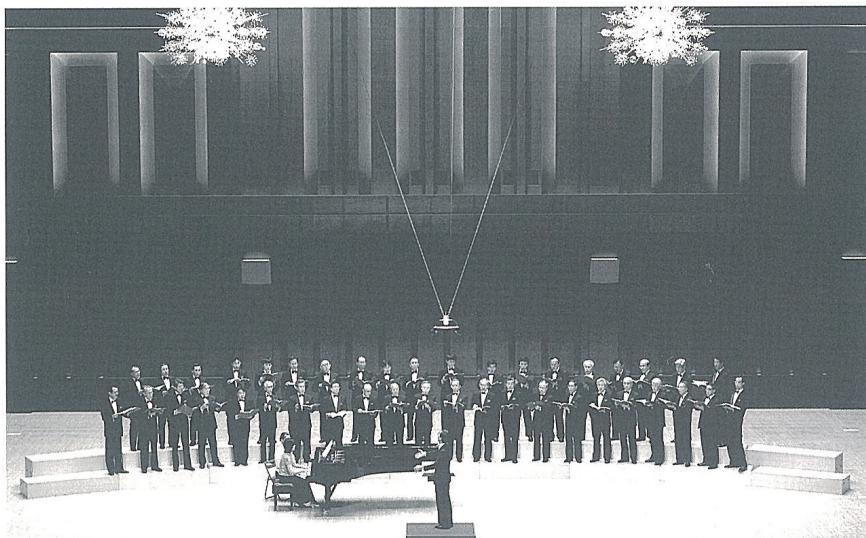
ごあいさつ



《創立46周年》
第23回西南シャントゥール定期演奏会
SEINAN CHANTEURS ANNUAL CONCERT 2000
賛助出演：「佳の会」

2000年11月19日(日) 午後2:00開演
アクロス福岡シンフォニーホール

主催/西南シャントゥール 共催/西南学院大学同窓会・西南学院グリークラブOB会
後援/福岡市・福岡市教育委員会・(財)福岡市文化芸術振興財団・福岡県合唱連盟・朝日新聞社



「1999・第22回定期演奏会」より



西南シャントゥール
会長／徳永麟之助

本日は日曜日でいろいろとご用件のある中、私どもの演奏会にお越し頂き誠に有難うございます。本年をもって今世紀も終わるわけですが、我がシャントゥールもそのほぼ半分に近い46年の歴史を刻んで参りました。この間種々の思いがございますがなにはともあれ、戦後まもなく、グリークラブの若いOB達がグループの結成を行い、今日まで続いてきたことを大変誇りに感じております。この間、日本経済の変貌の担い手として社会の中で活躍してきた若きグリーメンも、今ではすっかりそれ相応に歳を取ましたが、こうして本日日頃の練習の成果をご披露できますことを、又大変嬉しく思っております。

それに今年は「佳の会」の皆様が快く賛助出演を引き受けくださいました。こんな嬉しいことはありません。

「佳の会」は皆様ご周知のとおり大変レベルの高い音楽集団です。どうぞ素晴らしいイタリア歌曲をお楽しみ下さい。

最後になりましたが本演奏会を催すにあたり、ご協力いただきました関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。



「佳の会」
会長／内田多佳子

ミレニアムの秋深く、西南シャントゥール様の「第23回定期演奏会」が催されますことを心からお慶び申し上げます。1954年結成、その初年度既に西日本1位・全日本3位のコンクール経験をもつ伝統の重さ、大学同窓の団結心がかもしだす“ひびき”、しかも日常お忙しいお仕事の中に新しい挑戦を怠らず、さすがに西日本の名門男声合唱団と存じます。

今宵私ども「佳の会」もお招きを賜り、先日上演のプッチーニ作曲のオペラ「修道女アンジェリカ」の興奮をそのままにつとめさせて頂ければ光榮この上もございません。

最後になりましたが西南シャントゥール様のご発展をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

[I 部]

I. 男声合唱組曲『光のうた』

作詩／川崎 洋 作曲／大中 恩
指揮／内海敬三
ピアノ／瀬川啓子

I. 日の出

II. 海

III. 日 影

IV. 夕 陽

V. ランプ

(※詩参照／7頁)

II. 《贊助出演》「佳の会」

『イタリア歌曲集』より

指揮／栗田哲海
ピアノ／杉村三枝子

- Amarilli mia bella (麗しきアマリッリ) カッチーニ作曲
- Le violette (すみれ) スカルラッティ作曲
- Spirate pur, spirate (さあ微風よ吹いておくれ) ドナウディ作曲
- Quando ti rivedro (いつ又会える) ドナウディ作曲
- Marechiare (マーレキアーレ) ジャコモ作曲
- Il pescatore canta! (漁師は歌う！) トスティ作曲

—— 休憩（15分） ——

[II 部]

III. 男声合唱曲『日本の歌メドレー』【編曲委嘱作品】

編曲／宇野正寛
指揮／徳永和彦
ピアノ／瀬川啓子・箏／河原伴子・打楽器／波多江圭

- 黒田節 筑前今様
- この道 北原白秋 作詩／山田耕作 作曲
- 紅葉 高野辰之 作詩／岡野貞一 作曲
- 叱られて 清水かつら作詩／弘田龍太郎作曲
あんたがたどこさ わらべ歌
- 箱根八里は 日本古謡／山田耕作 編・作曲
- 鉢をおさめて 時雨音羽 作詩／中山晋平 作曲
- 早春賦 吉丸一昌 作詩／中田 章 作曲
- かやの木山の 北原白秋 作詩／山田耕作 作曲
- 村 祭 葛原 茖 作詩／南 能衛 作曲
- エンディング（黒田節） 筑前今様

—— 小休止 ——

IV. 男声合唱組曲『緑深い故郷の村で』

作詩／伊藤 整 作曲／多田武彦
指揮／内海敬三

I. 春 日

II. 風

III. 雨

IV. 壽 にひさし

V. 林檎園の六月

(※詩参照／10頁)



出 演 者



指揮者／内海敬三 (うつみ けいぞう)

1954年、西南学院大学商学部卒業。56年、英文科卒業。
1956年、西南学院グリークラブ指揮者となり翌51年と連続して西部合唱コンクールに優勝。全国合唱コンクールでも連続3位に入賞して、戦後のグリークラブの第一期黄金時代を築いた。
1954年（昭和29年）4月、西南シャントワール創設、今日に至る。



指揮者／徳永和彦 (とくなが かずひこ)

西南シャントワール副指揮者。
1961年、西南学院大学商学部卒業。
福岡高等学校合唱部、西南学院グリークラブを通じて学生指揮を務める。
現在、(財)福岡県企業振興公社勤務。



ピアノ／瀬川啓子 (せがわ けいこ)

福岡教育大学音楽科卒業。ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。
西南シャントワール、福岡合唱協会、九州電力合唱団の専属ピアニスト。
福岡在住の声楽家との共演も多い。
現在、西南学院大学文学部児童教育学科教授。



箏／河原伴子 (かわはら ともこ)

東京芸術大学音楽部邦楽科卒業。
1991年、東海大学教養学部芸術学科音楽科研修生修了。NHK邦楽技能育成会第37期生。1995年、賢順記念全国箏曲コンクールに於いて最高賞「賢順賞」受賞。
現在、宮崎大学教育学部音楽科非常勤講師。福岡女子高等学校箏曲部講師。
宮城会所属。



打楽器／波多江圭 (はたえ けい)

福岡大学人文学部フランス語学科在籍。
福岡大学交響楽団打楽器奏者。
福岡パーカッションカンパニー所属。



編曲者／宇野正寛 (うの まさひろ)

福岡県立福岡高等学校を経て、武蔵野音楽大学作曲学科を卒業。
クラウス・プリングスハイム、江口保之、宗像 敬の各氏に師事。
卒業後、マスコミ関係、特にNHK、日本テレビ、テレビ朝日、博報堂などの放送音樂を多数担当した。1981年から福岡に帰り作曲活動を続けている。
最近は、宇野正寛ピアノ曲集『叙情的なメロディ』を音楽之友社から出版(1993年)。
またコンピュータ音樂に興味を持ち、大学の教科として取り入れその指導に当たっている。現在、福岡女子短期大学音楽科教授。社団法人日本作曲家協議会会員、
社団法人日本音樂著作権協会会員。



出 演 者



佳 の 会

「佳の会」は内田多佳子先生のもと、イタリアのベルカント唱法を学ぶ門下生が「門下生発表会」にて独唱と共に合唱の演奏をしたのを機に、1990年結成された。以来、「北原白秋没後50周年記念演奏会」(柳川市、福岡市にて)、内田多佳子リサイタルにおいてオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」の共演等、邦人作曲家の合唱曲やイタリア・オペラの合唱曲を中心に演奏活動を行っている。又、イタリアよりマウリツィオ・コラチッキ氏(ローマ・レスピーギ音楽院教授)を招き演奏会、公開レッスン等を開いている。「佳の会」では合唱に於いて最も大切なことである“人の和”を願い、そして声(発声法)を統一させるため団員一人一人のヴォイス・トレーニングに励んでいる。

去る9月29日福銀大ホールにてロシアのオペラ歌手エレナ・オブラツツォワ女史を招き、プッチーニ作曲 オペラ「修道女アンジェリカ」を上演。



佳 の 会 出 演 者

● Soprano

青木 知子	三浦 由美
江口 亮子	三浦 陽子
辛島 範子	渡辺 輝子
佐伯 洋子	
渕上 道子	
牧園多恵子	

● Mezzo soprano

飯田 順子
大隈 泰
野口 儀
三砂真美子
松尾聖奈子
森部久美子

● Alto

芦田 和子
芦田 美香
稻永 恵子
池田セツヨ
坂本 志保
内田多佳子

指揮者／栗田哲海 (くりた てつみ)

福岡教育大学音楽科卒業。
1986年から88年北九州交響楽団常任指揮者。
現在、福岡を中心に九州交響楽団、福岡シティフィルハーモニーオーケストラ、春日市民オーケストラ、福岡アカデミー室内合奏団、女声合唱団「クール・フルール」、「佳の会」等の指揮者として活躍中。九州女子短期大学非常勤講師。

ピアノ／杉村三枝子 (すぎむら みえこ)

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。
1977年、九響室内合唱団とJ.C.バッハの協奏曲を共演。1980年、九州交響楽団、福岡女学院創立記念合唱団とベートーヴェンの「合唱幻想曲」を共演。内田多佳子リサイタルでは伴奏ピアノを務めている。現在、活水女子大学音楽部講師。「佳の会」の専属ピアニスト。



『日本の歌』の編曲にあたって

宇野 正寛

昨年、指揮者の徳永和彦氏より電話を受けた。男声合唱団「西南シャントゥール」の為に日本の歌を編曲して欲しいとの依頼。男声合唱団といえば幅の広い音域と力強い響き、美しいハーモニーとファルセットの柔らかなメロディなど色々な音色が直ぐ頭に浮かぶ。今回の編曲では日本の歌に限ってとあるので、当然よく知られていて、よく歌われる曲が選曲の対象となる。それを単純に男声合唱に編曲して、次々に変化しながら上手に歌っても、何か物足りなさが残るのではないか、と懸念した。

音楽が多様化された現代の社会では色々な種類の音楽があり、それが日常生活の中のテレビやCD、又さまざまなメディアを通して人々に入ってくる。前述したように男声合唱はそれ自体で十分に幅のある響きと美しさを持っている。又アコースティックで聴かせる素晴しさもある。しかしそれだけでは、現代ではよほど変化を持たせないと退屈な合唱になってしまう。

さて前置きが長くなつたが、今回の『日本の歌メドレー』は、前述のような理由で少し工夫をした。この場合日本の歌であるので、合唱の合間に時々和楽器(箏)が参加すれば、全体的な構成に変化が得られる判断し編曲した。

曲 目	様 式	伴奏・参加楽器
1曲目／「黒田節」	〈前奏〉	箏・打楽器・ピアノ
2曲目／「この道」	アカペラ	
3曲目／「紅葉」	アカペラ	
4曲目／「叱られて、あんたがたどこさ」	2曲同時に歌う	箏・ピアノ
5曲目／「箱根八里は」	馬子唄風に	ピアノ
6曲目／「鉢をおさめて」		ピアノ
7曲目／「早春賦」		ピアノ
8曲目／「かやの木山の」	アカペラ	
9曲目／「村祭、カデンツア」	箏・打楽器・ピアノ	
10曲目／「黒田節」	〈エンディング〉	箏・打楽器・ピアノ

前述を考慮しながら、以上10曲を全体で1曲として連続して歌えるように構成した。次の点がそれぞれの特徴と言える。

- 1曲目と10曲目の「黒田節」は、前奏とエンディングに配置され、リズムを替えて最初の雰囲気づくりと、最後の盛り上げに使用した。
- 2曲目「この道」、8曲目「かやの木山の」の二曲は、純粋にアカペラで男声合唱団のハーモニーとメロディの美しさや、四声体のバランスのつくり方等、力量が十分發揮出来るように配慮した。この二曲がこの合唱団の実力の聴かせどころと考えてよい。
- 4曲目「叱られて、あんたがたどこさ」は二曲同時に歌う編曲で、静かで弾んだ感じの民謡調のリズムを作るのが難しい。
- 5曲目「箱根八里は」はテノールソロで馬子唄風。高音域の日本調のこぶし回しを十分に聴かせて欲しい。
- 9曲目「村祭・カデンツア」は箏カデンツアであるが、後半の大きな山である。村祭の旋律で大きく1コーラス派手にソロで参加すれば、合唱曲の中での大きな変化となる。

(宇野氏のプロフィールは4頁参照)



『縁深い故郷の村で』

伊藤整といえば1950年、彼が訳したロレンスの『チャタレー夫人の恋人』が猥亵文書として起訴され、それに対する文壇あがての法廷闘争が連日ジャーナリズムを賑わし、伊藤整ブームを巻き起こしたことを思い出す。

整は1905年、北海道松前市に長男として生まれた。日露戦争の頃で、軍隊調の抜けない父親が若い妻を娶り、12人の子供を生ませたとして父親を極度に嫌っていた。中学3年の頃、列車通学での女学生にまつわる新鮮で甘美な思い出は『若い詩人』に詳しい。その頃読んだ『藤村詩集』に彼は「自分の運命に巡りあったような」感動を覚えたという。

1926年、最初の詩集『雪明りの路』を出版。彼は後年それを「私自身の原形のようなもの」と述べている。「詩集を貫くテーマは郷里の自然を背景にした幼年の世界とその崩壊でそこには自己と自然への純粋で傷つきやすい感性と夢想が紡ぎ出した独自の叙情詩の世界が築かれている。」

参考「新潮日本文学アルバム」、新潮社文学全集、講談社日本文学全集『伊藤 整』

多田武彦の『縁深い故郷の村で』は『雪明りの路』から5篇を選んだ無伴奏曲である。我々がこの曲を最初に演奏した11年前、ステージ裏で聴いておられた福永陽一郎さんが「よかったですよ。」と言われ、私は「ありがとうございます。」と答えたが、それが彼との最後の会話となつた。更にその思い出は、石カン、森ケン、よねサン（福岡の戦後の音楽は彼等なしには考えられない）と我々が呼んでいたそれらの故人への思い出へつながっていく。

シャントゥールは平均60歳を超え、当然身近な人の死を経験している。それらの人達への思いを重ねこの曲を歌うとともに、意味ある現在を積極的に生きて行きたいと思っている。

I. 春日 『雪明りの路』の冒頭の詩で、恍ただしい都会ではもう失われてしまった自然との暖かい信頼関係を故郷の老婆の姿に見い出しながら、静かな人生を慈しむ作者の気持ちが穏やかに歌われる。

II. 風 やがて帰ってくる夫のために、若い母親は一向に泣きやまない子供をあやしながら忙しく夕飯の準備をしている。アレグロの早いテンポは激しい風と母親の苛立ちを表しているようである。

第1次世界大戦によるインフレで、子沢山の伊藤家の家計は非常に苦しく、一人二人と養子に出しても追いつかない状態であった。他の幾つかの詩にもあるように、その頃の子育てに苦労する母親の姿をうたつたものである。

III. 雨 雨にうたれ激しく揺れる花のように心は乱れる。そして孤独で荒んだその心に悲しみが雨のように降り注ぐ。バリトンのソロが低く高く、幅広い音域でゆっくりと静かに歌う。

IV. 寿 ひさし に 雨降り花（つりがね草）の咲く野道を行く葬列。12才の若さで亡くなった弟「ひさし」を偲ぶ想いが16分音符を連続的に続けてレシタティヴ風に、そしてレクイエムのように歌われる。

V. 林檎園の六月 友人の家の裏にある林檎園の白い花や、恋人、重田根見子との別れ等の実体験を、架空のシチュエーションに置き換えて歌った詩である。故郷の林檎園にまつわる青春の官能的な、めくるめく思い出は、草木の縁とともに深まっていく。

(記：内海敬三)

西南シャントワール

西南シャントワールは1954年(昭和29年)4月、西南学院グリークラブOBの54期の内海敬三氏(現・指揮者)らが中心となり結成された。以来、西南学院卒業者のメンバード構成されており、西南OBの結束の堅さを継続している。シャントワール[Chanteurs]という名称は、当時のアメリカ海軍の男声合唱団名の“The Sea Chanter”とフランスの男声合唱団名“Companie de la Chanson”を参考にし、結局フランス風に洒落て西南シャントワール[Seinan Chanteurs]と命名された。

結成された当時は主に全日本合唱コンクールへの出場を目指し、3位入賞などの実績を残している。ここ十数年は専ら年に一度の「定期演奏会」を活動の中心に置き、同時に又各地の合唱団とのジョイントコンサートやゲスト出演活動を続けている。現在全国的にみても、毎年定演を持つ貴重な一般男声合唱団として高く評価されている。

1年間の演奏活動

- 1999年11月25日 [アクロス福岡] ● (創立45周年記念) 第22回西南シャントワール定期演奏会
- 12月12日 [メルパルク] ● (創立80周年記念) 第48回西南学院グリークラブ定期演奏会(賛助出演)
- 23日 [アクロス福岡] ● (福岡女学院創立114周年記念) クリスマスコンサート“メサイア”(有志出演)
- 2000年 6月11日 [アクロス福岡] ● (2000年記念) 第55回合唱祭
- 9月 9日 [長崎市民会館] ● (30周年記念音楽祭) コーラ・ステラコンサート(賛助出演)
- 11月19日 [アクロス福岡] ● (創立46周年) 第23回西南シャントワール定期演奏会

西南シャントワール出演者

● 1st Tenor	● 2nd Tenor	● Baritone	● Bass
秋根 武	的野 恭一	林 照樹	下川 勝史
乙藤 成美	福井 獨	内海 敬三	豊田佳日子
宮地 基次	馬頭 経明	和田 正義	木道 昇
高木 正志	野辺 和馬	石川 和義	田中 義信
中尾 武史	波多江 忠	古賀 正義	鶴 喜広
出口 幸一	徳永 和彦	松尾 淳郎	松枝 保匡
山元 一憲	黒江 量二	佐藤 棟也	阪井 俊文
倉地 謙進	石松 茂	里中 健	毅昭
大司 真聰	窪田 敏博	小西 真二	博彦
山口	波左間 実	中山 敬二(現役)	登

♪20世紀最後の演奏会という事を特別意識した訳でもないが、結果的に邦人合唱組曲と日本の歌のプログラムとなった。特に日本の歌はご来場の皆様もよくご存知の曲だけに却って難しいが、編曲の面白さで楽しんで頂けると思う。そして久し振りの女声合唱のステージ、「佳の会」の実力、篤とご堪能下さい。来る新世紀が皆様にとって素晴らしい世紀(とき)でありますように。ご来場感謝致します。
(マネージャー/中尾武史)

I 春 日
緑深い故郷の村で (詩/伊藤整)

II 風
春の畑に老婆がひとり
土は俄雨と太陽の熱とで気持よい暖かさを抱いてゐる。

老婆は軟い畑に敵をつくり
黒土の穴に

黒豆を一つ一つ並べてゐる。
その豆の間違なく萌え出るのを知るものやうに
ついしみつゝ土をかける。
この老いたる女と白き豆とに約束あり。
ついねいに
夢見る太陽の回転するいま、
老いたる女と白き豆とに約束あり。

III 雨
雨の降る日
私の心は花壇の白い花のやうに
雨にたたかれで亂れてしまふ。

私は頼るものを見らず
人の心を信じようとはしない。
さひしく荒れた心に眺める
暗い紫の地には雨が降つて降つて
いつまでも降り續いてゐて
そこに夕方の闇がくると
泣いたあととのやうに悲しくつかれて
私は眠るのだ。

IV 毒に
焼場からの帰り路には
雨降り花が數知れず咲いてゐる。
雨降り花はどこか
私は眠るのだ。

V 林檎園の六月
林檎園はほうっと白く
りんごの花ばかり
六月。
林檎園はほんなりと
かうして伸び上り
人氣ない所に
蜘蛛は殿な巣を張り
蓬や虎杖は深く茂つて膝を埋める。
この春といふものなぜか
あの頬のやうな花にまで涙を誘はれるのだ。

弟と
いまお前の骨を箱に拾つて
みんなは白い着物で
五月の野道を並んで歸るのだ。
兄さんはもう二十二
博っちゃんだってはたちになり。
おまへと仲よかつた八重子は十六のおとな、
それなのにお前だけが
たつた十二で鐵板の上に白い骨になり
箸をもつた私たちを焼場で泣かせた。
この野道には死ぬ前のおまへの顔のやうな
雨降り花がずっと咲き續いてゐて
お前が十二年育つた風景のなかを
雲雀らが
いくすぢもいくすぢもない空に昇る。

子供の心に
頼りない涙が込み上げてくるのだ。
子供はいつまでもすり上げてゐる。
木や草はざわざわと葉をかへしてゆれる。
こんな時には
子供がむづかって泣く。
裏の林を風が落ちつきなく吹きすぎ
母はそれを叱りつけて
急がしく夕飯の仕度をする。

この花が散れば
それで夢のやうに過した六月は経つてゆき、
それから先の世界では
たゞ狂ほしく私をめぐつて

緑へ緑へと季節が深まるばかり。


花キク
 中洲店 ☎271-2220
 新天町店 ☎741-0187
 奈良屋店 ☎272-2141
 渡辺通店 ☎751-1506

 株式会社 **山本文房堂**
 ●本 店 福岡市中央区大名2丁目4-32 ☎092(751)4342
 ●すみかば 中心 天神2丁目5番地 ☎092(751)4343
 ●天神 大通 4丁目5番地 ☎092(751)4344
 ●福岡駅前店 草薙区西新4丁目西新駅前6番 ☎092(751)2727
 ●福岡駅前店 草薙区西新4丁目西新駅前6番 ☎092(751)2727
 取締役会長 的野恭一 (28歳)
 代表取締役社長 山本保之 (56歳)
 専務取締役 的野隆司 (57歳)

地上16階のコミュニケーションスペース

Communication Space

結婚式・同窓会・記念祝賀会・食事会
 講演会・展示会・記念式典・各種会議
 研修会など
 幅広く、ご利用いただけます。
福岡国際ホール
 福岡市中央区天神1丁目4-1西日本新聞会館16階
 ☎092(712)8855

西南学院グリークラブ 第49回定期演奏会

ミュージカル「レ・ミゼラブル」
作曲/C.M.Schönberg 編曲/完戸真人・吉富淳子

“Old American Songs”
原編曲/Aaron Copland

男声合唱組曲「雨」
作詩/伊藤整他 作曲/多田武彦

指揮/完戸 真人
 ピアノ/吉富 淳子
 ソプラノ/永田早智代
 2001.1/14(SUN)
電気ホール
 開場16:00 開演16:30
TICKET/ ¥800
 主催/西南学院グリークラブ
 後援/福岡市・福岡市教育委員会・福岡県合唱連盟・朝日新聞社・九州朝日放送・FM*FUKUOKA
 お問い合わせ/廣岡誠治 TEL・FAX 092-841-4111
 ※チケットは、福ビル他、市内有名プレイガイドにて発売中！



大丸友の会〈ボーナスコース〉 ご入会募集中

■お好みのコースをお選び下さい。

ボーナス 3,000円コース

ボーナス1口 5,000円コース

ボーナス2口 10,000円コース

ボーナス4口 20,000円コース

■大丸友の会特典

特典1 12ヶ月お積立ていただくと、1ヶ月分のボーナスをプラスした13ヶ月分の「満期お買物券」をさしあげます。お買物券のご使用は博多大丸のみでございます。

特典2 お中元、お歳暮のギフトが特別価格でお選びいただけます。

特典3 会員様の皆様を対象とした特別催事にご招待いたします。

特典4 ご入会記念品進呈。

特典5 友の会会員様をご希望の方には、「優待証」をさしあげます。九州各県、山口及び各地一流観光ホテル、レジャー施設、映画、自動車学校などが友の会会員優待料金をご利用できます。

●ご入金に便利な銀行・郵便局の自動振替をご利用下さい。

・西日本銀行 ・福岡銀行 ・福岡シティ銀行 ・福岡中央銀行 ・九州銀行
 ・佐賀銀行 ・郵便局 の中からお選び下さい。

ファッション MBコンフォート



DAIMARU
大丸・福岡天神
金額:年会費年会員料30分まで常葉
博多大丸友の会株式会社

お申し込みは…西館地下2階 友の会カウンター



SINCE 1954 TO 2000